

■部会名：暮らし・定住部会

■部会長（有識者委員）：千里 政文 委員

■市民委員：大作 美佳 委員、神 千加 委員、諏訪部 容子 委員、
富沢 裕司 委員、松本 教子 委員、水野 功 委員

■概要

1 全体の進め方と部会長報告の部分について

千里部会長：第4回の部会の内容を受けて、修正したマトリックスに基づいて私の方でたたき台をつくってみたので、本日はこのたたき台を進めたい。

さっそく修正となるが、部会長報告の2段落目にある「1短大」は誤りなので、「2短大」へ変更したい。また、その下の「文京の」という文言を戦略テーマに合わせて「学べる」へ変更したい。そして、下から3行目の「システム作りも重要であることが明らかとなった。」の部分「システム作りが大切である。」へ表現を変更したい。他に委員から意見を伺いたい。

○ 2段落目の中ほど「さらに、市民会議…」からの文章が、1つの文章としては長すぎるのではないかと。「…情報発信の拠点が必要ということが挙げられている。このことは、…」と区切ったら良いのではないかと。

—各委員了解—

2 提言書（たたき台）まちづくり政策提言について

千里部会長：まず、（2）中期的な取り組みのソフトの③「大麻地区の高齢化対策」について、大麻地区だけの問題ではなく、また少子化対策も大事であることから、「大麻地区の」を削除し、「少子高齢化対策」としたい。

次に、（3）長期的な取り組みのハードの①「江別駅周辺の整備と小学校の統廃合を一体的に実施」の部分は、江別駅だけの話ではなかったもので、後半でこの内容が出てきた時に修正したい。

—各委員了解—

3 戦略テーマ提言：「子育てしやすいまち（仮）」の検討

千里部会長：中期のハードづくりや長期のハード、ソフト、ハードづくりの部分については、マトリックスの中で特に意見がなく空欄であったが、どの項目でも短期で終わりということではなくて、中・長期へと継続して実施することが重要であるので、その旨を記載した。修正すべき点などについてご意見をいただきたい。

○ まちづくり政策提言の短期的な取り組みのハードづくりにおいて、「①子どもをいっぱい産んで育てたいと思えるまちづくり」や「②教育環境の充実」という文章があるが、

戦略テーマ提言の具体の方策のところでは、これらの表現がなくなっているのだが、これで良いのか。

千里部会長：部会を重ねていくごとに、マトリックスの中の意見が移動したり、『暮らしの情報発信』の戦略テーマ提言でこれらの意見について対応したため、ここの戦略テーマの部分には記載していない。

○ 根拠がないと戦略テーマ提言の方に記載するのが難しいのかもしれないが、「子どもを産んで育てたいと思えるまちづくり」という表現が入ると良いと思う。

千里部会長：内容としては、ソフトの中に記載してあるが、文章としてあった方が理解しやすいので、この文章を入れたいと思う。

○ 戦略テーマ提言のはじめの方の「どんな状態にしたいのか」という概念的な部分にある「子どもをいかに増やすか」の代わりに、「子どもを産んで育てたいと思えるまちづくり」を入れると良いのではないか。

—各委員了解—

⇒ 事務局：短期・ソフトの②にある大麻小学校区の学童保育については、小学校の校舎の中ではなく第二大麻幼稚園で実施していることから、「児童会館がなく」とはならない。また、短期・ハートづくりの「児童会館の定員拡大」は、正しくは「学童保育の定員拡大」である。

千里部会長：では、ソフトの②の大麻小学校の学童保育の部分の文章は削除して、下のハートづくりの「児童会館」は「学童保育」へ文言を修正し、定員拡大の部分については、入会の要望があるのでこのままとしたい。

ソフトの④の「障がい児支援」の記述については、年齢によって特別支援という言い方があるので、実態に合わせた表現としたい。

次に、中期のソフトの「③土日の予防接種の実施」について実際はどうかを確認したい。

○ 予防接種は、保健センターで実施したり、個人病院で実施したりなどいろいろである。個人の病院で実施するとなると、個人病院の方針となるのではないか。

⇒ 事務局：予防接種のニーズは、実際にあり、医師会との意見交換では、土日に病院を開けて対応するとなると、多くの患者が訪れる中、予防接種を受けに来るのはどうなのかということと、医師の対応が大変であるとのことである。

千里部会長：では、このまま文章として残しておく。仕事をしている親にとっては、土日の対応の他に夜間の対応も必要ではないかと思われる。

○ 土日の他に夜間まで加えると大変なことになるのではないか。

○ 毎週の土日だけでなくとも良いので、月1回のどこかの夜間だけでも対応してくれると、親としては時間帯を合わせられるのでとても助かる。

千里部会長：医師としては、土日の対応で困難な部分もあるが、必要性はあると思う。「土日の予防接種を実施する」と一部文言を修正して残しておくこととする。

—各委員了解—

4 戦略テーマ提言：「暮らしの情報発信（仮）」の検討

千里部会長：誰が情報発信をするかという部分で、責任を持ってきちんと対応されていないために情報が上手く伝わらないということが生じている。情報発信の部署をしっかりと設けて、情報をちゃんと入手できる拠点づくりを行うと良いのではないかと思い、この文章を記載した。絶対にできないこととしては、新たに何かをつくって情報の拠点とすることだと思う。「情報」と名のついている情報図書館を情報発信の拠点とするシステムづくりを、市民の力も活用して実施できればと思う。国内でも 365 日 24 時間という例がある。情報発信に関して各委員からご意見をいただきたい。

- 河川防災ステーションのネーミングを全国的に募集する必要があるのか。北海道の1つの市に関する事なので、全国の人が興味を持ってくれるであろうか。全道レベルで良いのではないか。
- 商品を目当てに全国から応募することもあり得るが、果たして効果があるのかどうか。
- 河川防災ステーションという名前には、我々市民も興味が湧かない。もっと皆が行きやすいようなネーミングだと良いのではないか。
- 「全国に」という文言を外したら良いのではないか。

—各委員了解—

- 海外都市との姉妹都市の提携について、海外の都市との直接的な市民交流をもっと多くしたら良いのではないか。

千里部会長：新規の姉妹都市提携は、財政的な面で厳しいという話であったので、ここの「提携」という文言を外したいと思う。ここの部分は、「海外（グレシャム市）」だけでなく「国内（土佐市）」も含めた姉妹・友好都市のPRを、市外だけでなく市内に対しても行うように文言を修正したい。

次に、中期のハートづくりの部分に文言が入っていなかったもので、長期の部分と同じような表現で「短期計画の成果を検証しつつ、継続的に行う必要がある。」を入れることにしたい。また、長期の部分の各文章の頭に「短期・」を追加していただきたい。

上の短期のソフトの部分に戻るが、③の文章が長すぎるので、情報などの「PR、」や「発信、」の部分で、「PRする。」や「情報を発信する。」と区切りたい。文章の最後の部分も「…様々な情報がありそれら発信する。」としたい。

—各委員了解—

5 戦略テーマ提言：「学べるまち（仮）」の検討

千里部会長：タイトルは、少しやわらかく「文教のまち」から「学べるまち」へ変更したが、これで良いだろうか。併せて「立案背景」のところにある「文教のまち」は取っていただきたい。

「どんな状態にしたいのか」という部分では、小学校からの記述となっているが、「戦略テーマ実現への方策」の部分に、保育園や幼稚園も出てくるので、「保育園、幼稚園」を文章の頭に追加していただきたい。

次に、短期のハートづくりの③の学習支援やいじめ等のメンタルケアの部分については、メンタル面やカウンセリングの相談が最近増えているという問題があり、大学でもこの部分の体制を強化しているので、私の方で付け加えさせていただいた。学校カウンセラーの需要は、最近多くなっている。

長期のハードの部分で、小学校の統廃合に関する意見があり、これはもともとJR駅周辺の話として出ていたが、小学校の周辺環境も含めた問題であるので、「小学校の統廃合は周辺環境も含め、慎重かつ計画的に行う」として記載した。すぐ下の「進学校が必要である」は、新たにつくると大変であり、教師の能力が上げれば進学校になるであろうし、そもそも進学校の定義が難しいので、ここからは除くことにしたい。

—各委員了解—

6 戦略テーマ提言：「住まいづくり（定住・空き家対策）（仮）」の検討

千里部会長：ハードの部分で、はじめから住宅に段差を付けないように配慮して造れば良いのだが、江別に限らず古い住宅ではそのような発想がなかったため、高齢になったり、病院から退院して帰ってきたら使えなくなったりということがある。自分の住み慣れた住宅環境をできるだけ長く維持するということが大切であると思う。

○ バリアフリーにすることは、年老いた親の面倒をみることも含めて若い人たちにとっては近い将来のことなので、無利子でお金を貸すなど、札幌とは違ったことを少しでもやらないと札幌へ出て行ってしまわないか。人口を減らさない一つの方法であると思う。

千里部会長：実際に行政がやるとなると大変であると思うが、行政がサポートするという文章を入れても良いかもしれない。栗山町でもこのようなサポートで経済効果があったことから、実際には必要であると思う。

○ 江別市内で比較的古い地区に住んでいるが、建築の基準が厳し過ぎるので、親と一緒に住むために3階に増築するといった場合に、基準の緩い札幌へ行ってしまふことがある。

千里部会長：大麻地区は、昭和41年に開発したところだが、当時良好な宅地を提供しようとしたことから第1種低層地域となっており、土地の4割しか建物を建ててはいけないということになっている。第2種でも6割である。逆に、緑がいっぱいあって子育てするには良い環境ではある。これは都市全体の見直しになるので、この部会とは違う話になると思うが、見直しの必要性はあると思う。規制を緩和するといろいろな可能性が出てくる。短期のハードの①の最後に、「ま

た、補助制度など公的なサポートも必要である。」と入れていただきたい。

また、バリアフリーにするとしても、安くできるものがいろいろとあるが、業者によっては、オプションの追加などで逆に高くなってしまふ恐れがある。安くできるはずのものが高くならないようにチェックする体制が必要であることから、ソフトの①の部分で「専門家によるバリアフリーサポート体制をつくる」という文章を記載してある。介護認定を受けていれば、バリアフリーでお金が少し出るなど、そういう制度を知らない方も多いと思うので、そういう意味も含めて記載してある。

建ぺい率・容積率の緩和について、提言の文章として入れるかどうか。簡単にはいかない話ではあるが、中期のハードの部分に③として、「若年層の住み替えに伴う土地の有効利用のための規制緩和を検討する。」を入れたい。

—各委員了解—

7 マトリックスで未配置となっている意見の検討

千里部会長：最後に、マトリックスで残っている意見について整理したい。「婚活イベントを開催し、結婚した人に手当を支給」という意見は、外したいと思うがいかがだろうか。

○ 市がイベントを主催するものではないし、しかも手当の支給は困難であると思うので、外して良いと思う。

千里部会長：では、外すことにする。また、「往診診療の充実」という豊幌に関する意見であるが、豊幌は歯科しかないので、他市町村の病院へ行ってしまうのかどうか。

○ 高齢化が進んだときに、訪問介護などの話が出てくると思う。しかも、豊幌だけの問題ではなく、他の地域でも高齢化した場合に往診診療が必要となるのではないか。

○ 地域からの要望や重要性が大きければ必要であろうが、そうではないようなので、外しても良いのではないか。

千里部会長：では、豊幌のことだけではなく、長期的にみると高齢者対策の話となり、また高齢化・市民活動部会でも話が出ているようなので、そちらの部会へ任せることにしたい。

最後に、「まちづくり政策提言」の長期のハードの①の部分の修正が残っていたが、小学校の統合は、今後江別駅周辺だけの話ではないので、戦略テーマ『学べるまち』の長期・ハードの所に記載してある「小学校の統廃合は周辺環境も含め、慎重かつ計画的に行う」へ変更したい。

また、戦略テーマの「(仮)」はすべて外すことにしたい。

以上で、暮らし・定住部会はすべて終了とし、最後の全体会議については10月実施の予定で改めて日程調整をしたい。

—各委員了解—